

公式大会に出漕するには、一連の手続きが必要です。また大会での各種の手順もよく理解しておきましょう。

**1 選手登録****Registration**

ボートの大会に参加するには、学校のボート部自体がまず、地域(都道府県)のボート協会に競技団体として登録されていなければなりません。その上で、選手が選手登録されていなければなりません。ボート部に入部したら、選手登録の手続きを済ませておきます。

**2 メディカルチェック、アンチ・ドーピング****Medical check**

選手登録された選手は、同時に、そのボート部または学校のシステムの中で、スポーツをしても健康上の問題がないことを確認しておく必要があります。といっても、何かの持病(心臓疾患など)や健康リスクがある場合には、それに対して適切な予防的ケアをしてロウイングに取り組みばよいのであって、スポーツができないということはありません。ただ、自分だけでなく指導者もそのリスクとケアをよく知っておく必要があるということです。

また、治療目的の薬でも、ドーピングにひっかかるものがあります。(治療目的であることを事前に申告しておけば問題ありません)また、安易に用いた市販薬やサプリメントの中にドーピング禁止薬が含まれるリスクもあります。選手登録と同時に、ドーピングの基礎知識を学んでおきましょう。

**3 エントリー(出漕申し込み)****Entry**

大会には、提供された開催要項を熟読し、適切に申し込みの手続きをします。しっかりしたマネージャーが手続きするボート部はそれはそれで賞賛に値しますが、選手自身もどのような手続きなのか、人任せにせず理解し、将来の自立したアスリートへの準備を進めましょう。

**4 監督主将会議、代表者会議****Managers Meeting**

監督主将会議がレースの前に開催され、競技日程や水路などの説明、諸注意、質疑応答が行われます。必ず出席し、特に、水域のルール、安全面の注意事項にはよく注意し、監督・主将はクルー全員に徹底しましょう。

最近の監督主将会議では、必ずしも質疑応答の時間が充分でなかったり、出席するクルー側も、きちんと意見や要望を出さない傾向もみられたりして、残念に思うことが多くあります。特に、ジュニアのコーチは、このような機会をとらえ、積極的に建設的な発言をする手本を見せてほしいものです。また選手自身も、積極的に質問・意見をさせるか、それともただ黙って早く終われという態度に終始するかは大きな分かれ道です。もちろん、不毛の議論やクレイマーになれという意味ではありません。もし全く非のうちどころのない運営だと感じるならば賞賛と感謝のひとつでも良いのです。

**5 監視、配艇など****Check athlete**

レースでは、クルーが提出された届出どおりかを監視する手続きがあります。また、配艇レースでは、監視とともに、配艇の手続きが進められます。細部は、大会ごとに異なるので、開催要項や監督主将会議での説明をよく聴き、理解して手続きを進めましょう。

**6 艇の計量****Weighing**

自艇参加のレースでは、予選通過時や入賞時に、レース終了の都度、艇の計量を行う場合があります。事前に自発的に予備計測をすることができるので、常備の拡声装置を含め、事前に予備計量しておき、規定重量をパスしていることを確認しておきましょう。何を艇の重量に含め、または含めないかについては、競漕規則およびそのレースでの扱いを、よく確認・理解しておかなければなりません。

**7 メンバー、シートの変更****Member change**

メンバー、シート(ポジション)、ブレードカラーの変更などは、文書による届け出で手続きできます。大きな大会では、所定の用紙が準備されているので、責任者が変更内容と理由を明記して提出します。

メンバーの変更については、漕手あるいは舵手が不調などの場合に、補欠と交代できますが、一度交代した場合は、再びもとのクルーに戻すことはできません。漕手(あるいは舵手)のポジションを変更する場合も、変更理由を明記して変更できます。

**8 ユニフォーム不統一の許可願****Uniform**

ユニフォームは、競漕規則上、統一されなければなりません。止むを得ない理由のある場合、または軽微な不統一の救済措置として、不統一の理由を示して許可を願い出て承認されるというスタイルが用いられるようになってきました。

**9 配艇レースでのパーツ交換****Rigging exchange**

配艇レースでの、オールロック・アセンブリの交換は、従来から広く認められてきました。現在ではどちらかといえばオールロック・アセンブリを持参し取り付けるケースが多くなってきました。そこで、配艇の際、艇に備え付けのオールロック・アセンブリを、必要なクルーに貸し出す方式がとられることがあり、その際に、アセンブリの借用願を提出する場合があります。

また、ストレッチャー・ボードやシートを持参し、「交換届」を提出して使用できるケースも増えてきました。これらの借用願や交換届も、レースごとに手続きをよく理解して利用しましょう。

**10 舵手の計量****Weighing cox**

舵手も計量があります。競漕規則をよく理解し、また各大会での手続きを確認しておきましょう。

**11 棄権届****Withdraw**

棄権の場合は、棄権届を(「口頭」ではなく「文書」で)届け出て棄権します。もし手続きを踏まずにレースに出漕しない場合は、棄権だけでなく、「失格」となる場合もあるので、必ず申告して棄権としましょう。なお、一度届け出た棄権を撤回し、出漕権を回復することはできません。